

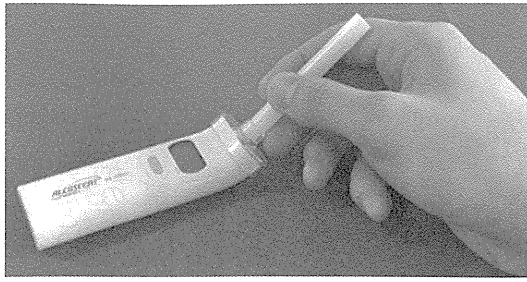
ストロー製造のシバセ工業

コロナ感染拡大受け

工業用・医療用ストローが好調

ストロー製造のシバセ工業(浅口市鴨方町六条院中3037、磯田拓也社長、Tel0865・44・2215)は、工業用・医療用ストローの開発に注力している。現在、新型コロナウイルス感染防止に役立つ製品の需要が急増し、売り上げを伸ばしている。

一つは、アルコール検知器用ストロー。ドライバーの呼気に含まれるアルコール濃度の測定は、全ての運送事業者で義務化されている。従来は検知器に付属するマウスピースが使われていたが、洗



アルコール検知器用ストロー

う手間がかかるほか、場合によっては複数人で使い回されるなど衛生面の課題があった。

同社は12年前から運送事業者の要望を受け、使い捨ての検知器用

ストローを商品化。どの検知器にも合うよう、1mm刻みで5種類のサイズを展開しており、価格も1本1円以下。1本50〜200円のマウスピースより安価で衛生的と口コミで受注を増やしてきた。さらに今年4月、国土交通省から感

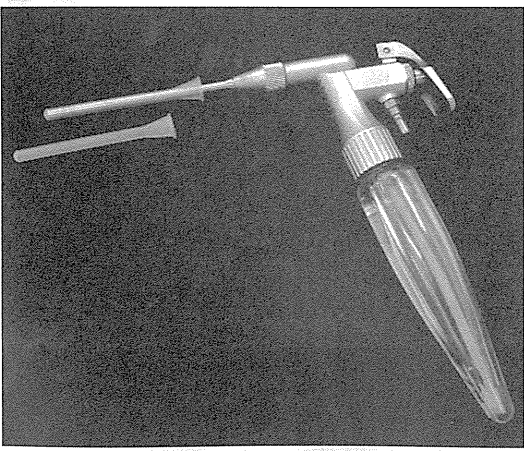
染防止のためアルコール検知にストローの使用を推奨する文書が発表されると、検知器メーカーや運送事業者から問い合わせが殺到。トラック運送事業者からの受注は昨年 비해50%増加した。個包装タイプの注文が大半で、一時は生産が追いつかないほどだったが、包装用の機械を新たに導入。従来に比べ2倍の生産量を実現している。

また医療用器具にかぶせるストローも多数開発しており、中でも好調なのが、患者の鼻に挿入して薬剤を噴霧するノズル用のカバーストロー。耳鼻咽喉科で使用される同器具は従来、アルコールなどで消毒されていた。

昨年春、医療機器メーカーから「使い捨てのノズル用カバーを作れないか」との要望があり、開発・商品化。利便

性を考え、先端は鼻に挿入しやすいよう細く、また根元は着脱しやすいようラップ状に加工した。当初はコストや着脱の手間から売り上げはゼロだったが、コロナのまん延を受け、院内感染リスクを軽減するアイテムとして需要が増加。4月から2カ月で2万本を売り上げた。約15年前から工業用・医療用ストローの開発を手掛けている同社。バネやワイヤーといった工業部品を入れる容器や、注射針やメスなどの鋭利な医療器具の保護カバー、血液などの液体を運ぶスポイトとノズルの役目を果たすものなど、顧客のニーズを受けて幅広い製品を生み出している。国内ストローメーカーで両分野の製品を製造しているのは同社だけという。

工業や医療の現場で使用される製品



鼻用薬剤噴霧ノズルカバー

は精巧さが求められ、小さな誤差が命取りとなる。そこで同社は、規格より0・1mmでも大きさが異なるものを自動で取り除くレーザーセンサー外径測定機を独自開発。さらに加工装置も自社で設計・開発しており、先端を溶着したり指定の形状にカットしたりと、特殊加工も得意とする。2年前にクリールームも増設し、工業用・医療用ストローの生産拡大を図る。

営業部の玉石一馬部長は「コロナの影響で飲料用の売り上げは落ち込んでいるが、安全性が高く衛生的なプラスチック製ストローは工業・医療の分野で確実に需要が増えている。今後も新しい生活様式に合わせた商品を開発したい」と話す。

今年もボランティア活動実施

北川鉄工所

(株)北川鉄工所(府中市元町77-1、北川祐治社長)は、本社・各拠点がある地域でのボランティア活動を実施する。2011年から継続しており、今年も所属部署や拠点を中心にチームを組み、チームごとに地域に貢献できる企画を考えた。8月から11月にかけて、本社地区では全25回の活動を予定する。内容は下川辺工場周辺の地域清掃や「恋しき」の掃除、福山工場周辺の歩道草刈りなど。